

伊藤忠クレヴィアタワー工事現場前の舗道陥没

既に住さんからのご連絡でご存知の方も多いかと思いますが、1月23日午後2時20分夕刻、伊藤忠クレヴィアタワー建設現場前の舗道が1メートルほど陥没しました。NTT東病院に行かれる途中の70歳前後の女性の方が、突然陥没した直径1m深さ90cmの穴に落ちてしまう事故でした。その女性の方は打撲だけで済んだようですが、危険この上ない事態でした。その後夜間に入っても国交省の調査が続きましたが、原因の特定はできなかつたようです（穴に水を流す調査によって、伊藤忠クレヴィアタワーの建設工事が原因とはされませんでした）。

翌日土曜の午前10時から、GEO SEARCHによる（超音波）調査が、現場から高輪台方面、五反田駅方面にかけてそれぞれ100mの範囲で行われました。現在のところ地下の空洞は検知されなかったということです（*検知器が感知できるのは、地下1.5mまでにできた直径50cm x 深さ10cm以上の空洞のみ）。これらの事故原因や調査結果については国交省の記者発表以外に私たちは知る術はないようです。そのため住さん達が、急遽注意喚起のための垂れ幕を舗道脇に用意して下さいます。



今後のことです。

過去にも、20数年前の東京デザインセンター建設中に同様の陥没が発生、2年前には地下鉄駅入り口A7付近で地下鉄駅トイレの漏水のために数十センチの陥没がありました。都内でも多くが地下鉄工事が過去にあった箇所に集中的に発生しているそうです（皇居付近が最も発生率が高い）。あくまで推測ですが、50年も前に行われた地下鉄工事での埋め戻しが、長年の振動などで土の層が圧縮され空洞が生まれ、それが徐々に表面にあがってきて陥没と

なるのではないのでしょうか。国による超音波調査は、始まってからまだ日も浅く、また舗道は5年に1度ぐらいしか行わないようです(車道は走行車で検査できるので2年に1度ぐらい)。豪雨による水の流れが空洞を増進させるようで、近年は5年に1度の検査では間に合わないのではないかと思われます。

私たち池田山住環境協議会としても、大災害時における避難や相互扶助について話し合いがされています。その中で、公共工事に関わる部分について住民同士で情報交換を行い、必要であれば行政に対して情報公開や改善工事を求めることを考えたいと思います。おそらく東日本大地震級の災害時には、池田山内の電信柱はほぼ倒壊します。親方日の丸で、自分達が将来負う危険について無知であることは、自己責任とされてしまっても仕方がないでしょう。ぜひ会員の皆さまには関心を深めていただきたく思います。



参考：NPO 法人「電線のない街づくり支援ネットワーク」井上利一事務局長の発言から

「阪神・淡路大震災では地中化されていない場合と比較すると、地中化されている場合の被災率は80分の1でした。電柱が地上にあると、災害時に地上に電柱が倒れてしまい緊急車両が通行できないなどという事態が起こる可能性があります」